

静岡病院ニュース

順天堂大学医学部附属静岡病院

〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129 TEL 055-948-3111

No. 58
2014年1月8日

謹賀新年



(三島市山田中より)

新年のご挨拶



病院長

三橋 直樹

明けましておめでとうございます。

昨年のこの欄で順天堂の175周年であると書かせていただきました。さて、静岡病院の方ですが、順天堂が伊豆長岡町の町立病院の経営を引き継いだのが昭和42年ですから今年で47年ということになります。あと数年で50年という節目を迎えることとなります。この間病院を応援して下さいました多くの地域の方々に御礼申し上げます。昨年は富士山が世界遺産に登録され、三島駅で見かける外人観光客が大変増えていきます。伊豆半島も富士山に近く、温泉が出て豊かな自然があるということで観光客が増えることが期待されています。静岡病院は以前から観光に来て急に発病したり怪我をしたりという方が多く来院されています。今後はそのような方が増えることが予想されます。

皆様もご存じのように、地域医療はいま大変難しい問題をかかえています。特に医療を担う医師及び看護師の不足は全国的な問題となっています。順天堂静岡病院も看護師さんの不足に長年苦しんできました。しかし本年からは少し事情が変わってきました。三島にある順天堂保健看護学部から今年初めて卒業生が出ることになりました。同じ順天堂ということも多く若い優秀な看護師さんが当院に就職いたします。いままでスタッフ不足で十分手がまわらなかった様々なサービスの提供や接遇の改善を期待していただけのことと思います。



肺炎の診断と治療

呼吸器内科 助教 石渡俊次

肺炎は一般に、急性感染症としてよく知られています。最近では、死亡原因の上位を占めること、予防策のひとつとして肺炎球菌ワクチンが知られるようになったこと、結核感染事例が報道されたことなどでも注目されています。

1 症状と診断

肺炎の原因は、肺炎球菌、インフルエンザ菌（インフルエンザウイルスとは異なります）、マイコプラズマといった細菌が多く、これらが肺に侵入し炎症を起こすことで、発熱、咳、息切れといった症状が引き起こされます。ただし高齢者では、発熱、咳などの典型的な症状が乏しく、食欲低下、意識の低下

などで発症する場合もあり注意が必要です。

診断には、血液や胸部レントゲンなどの検査のほか、喀痰培養などから原因菌の確定を行います。原因菌がはっきりしない場合もあり、検査を繰り返すこともあります。

2 治療

肺炎の治療は、基本的に細菌の増殖を抑える抗菌剤（抗生物質）を使用するほか、痰を出しやすくする去痰剤や解熱剤、さらには酸素吸入や点滴といった対症療法を行うこともあります。

抗菌剤には様々な種類があり、それぞれ有効な菌が限られています。このため原因菌に

て抗菌剤を使い分ける必要があり、前述の菌の確定検査には一定期間が必要であり、確定するまで発症状況に応じた抗菌剤を使います。

3 いのちに関わることもあります

厚生労働省によると肺炎による死亡例は、平成23年に脳血管障害を抜いて第3位になりました。その多くが65才以上の高齢者であり、社会の高齢化が影響していると考えられています。また高齢者で肺炎が多い理由のひとつに誤嚥性肺炎が多いことがあげられます。

誤嚥性肺炎は、加齢、脳血管障害、認知症などによって、飲み込み（嚥下）がうまくいかず、食物や唾液が細菌とともに肺に流れ込むために起こります。嚥下機能は、回復が難しかったり、回復に長期間を要したりするため、誤嚥性肺炎を繰り返すことも多く注意が必要です。

4 肺炎球菌ワクチンがあります

通常の日常生活でみられる市中肺炎の原因菌でもっとも多いのが肺炎球菌です。これに対するワクチンは、接種後5年間有効とされています。注意するポイントとしては、肺炎球菌以外による肺炎など、肺炎のすべてを予防するわけではないこと、多くは自費診療になることなどがあげられます。

5 肺結核について

肺結核は肺炎と似た症状のため、発見が遅れることがあります。結核の診断には喀痰検査が必須で、これにより結核と診断され、さらに周囲に広げる可能性がある場合には、専門病院に入院しなくてはなりません。結核菌は、通常の抗菌剤では効果が十分でないことが多く、抗菌剤でも改善しない長期間の咳や発熱には注意が必要です。

職員紹介



救急診療科

柳川 洋一

Profile

- 防衛医科大学校(S63)卒
- 日本救急医学会指導医
- 日本内科学会指導医
- 日本プライマリ・ケア連合学会指導医
- 日本外傷学会専門医
- 日本脳神経外科学会専門医
- クリニカルトキシコロジスト
- 高気圧酸素治療管理医

平成25年5月1日に順天堂医院から静岡病院に転勤致しました。専門分野は救急全般と災害医療です。具体的な内容は多発外傷、急性中毒、環境障害(熱中症など)などの外因性重症救急疾患、来院時心肺停止、アナフィラキシーショックなどの緊急蘇生処置を要する内

因性疾患等になります。元防衛省職員であったこともあり、災害医療に関しては阪神淡路大震災、東日本大震災での活動の他、ルワンダや東ティモールで医師として国際貢献の仕事に従事していたこともありです。静岡病院は伊豆半島における救急医療の砦として位置付けられているため、ドクターヘリコプターに搭乗して現場からの医療活動を行ったり、沿津市立病院からの要請を受けて同病院の救命救急センターの支援に赴いたりしています。まずは事故や急病にかからないことが重要ですが、そのような事態が生じた際には最新の診療を皆様に提供できるように努力していきたいと考えております。

地域医療連携室だより

「ご来院皆さまの声」

●「診察時の職員の私語が耳に入り不快な気分になった」

▼基本的な職務規律が守られておらず、申し訳ございませんでした。規律徹底致します。

「医療機関の「ご要望」

●「救急患者の受け入れをスムーズにしてほしい」

▼現在、救急診療部の不応需率は4%程度であり、その全てがやむをえない事情(手術不可能など)により他院に転送していただくなどの対応となりました。

他診療科につきましては、現在応答システムを変えることも併せて、不応需をかぎりなくゼロにすべく努力しております。ご理解のほどをお願い申し上げます。

地域医療連携室では、ご来院の皆さまの声ならびに医療機関からのご要望を、毎月逐次、院内掲示、ディスプレイ表示、ホームページを通じてお知らせしています。

医療内容や個人情報に関わる特殊かつ深刻な事情から、個別にご返事させていただきます。逆は細かい事情を伏せて概括報告することもございます。その点をご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

ここでは、紙面の関係上、その例のみを紹介させていただきます。しかし、実際には、全てのご要望・苦情の対象となった当該職員とその職域責任者、そしてそれらを統括する病院管理者全員が周知し、全力で対応していることを申し添えます。

今後ともご要望・ご意見がございましたら、何なりとお申しつけください。

2013年12月27日
地域医療連携室長 江ノ浦重貴
地域医療連携室：電話番号
055-948-1311
(内線3550)



当院での緩和ケア活動について

麻酔科

教授 岡崎 敦
看護師 白川 啓子

WHO(世界保健機関)による 緩和ケアの定義(2002年)

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し和らげることで、クオリティー・オブ・ライフ(QOL:生活の質)を改善するアプローチである。

当院の緩和ケアチームは、地域がん診療拠点病院として地域の皆様の支援を行う役割を担い、平成19年より活動を開始しています。

急性期病院である当院において、緩和ケアは治癒を目指す治療をサポートする療法として導入され、患者さんの病気や症状に応じてケアが選択されていきます。即ち、緩和ケアは、終末期や臨死期に限定したケアではなく、つらい症状をできるだけ早く改善して次の治療へ繋げていくためのケアです。

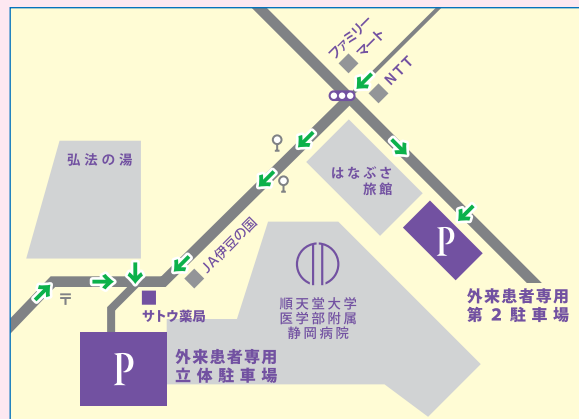
対象は患者さんと患者さんを支える人で、患者さんの死亡後も必要に応じて継続し、癌に限らず、あらゆる苦痛を感じている患者さんのケアも行っています。平成24年度の緩和ケア介入患者さんは(主に入院患者さん)、158名でした。

緩和ケアチームは身体症状緩和医師・精神症状緩和医師・看護師・薬剤師・心理療法士・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・社会福祉士のメンバーで構成されており、様々な問題に対応できるような体制としています。

第2駐車場開設のお知らせ

12月24日より病院東側(時間外玄関の左側)に、新たに58台収容できる有料駐車場を新設いたしました。

24時間利用可能な平面駐車場で、ご利用料金は立体駐車場と同額になります。



お知らせ

患者さんをご紹介頂く先生方へ

当院では、専用の診療情報提供書をご用意しておりますので電話またはFAXにて下記へご請求下さい。

請求先：順天堂大学医学部附属静岡病院

医療サービス支援センター地域医療連携室

電話：055-948-3111(内線)3550

フリーダイヤル：0120-78-9914

FAX：055-946-0858